

群馬県立桐生清桜高等学校 学校評価一覧表 ① (令和6年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 選択科目を多く設定している教育課程に満足している生徒が80%以上いる。	・生徒の能力・適性をさらに伸ばすため、授業を基本として、さらに授業の改善に努める。 ・外国語(英語)・数学の授業は、少人数制・習熟度別で実施し、達成度の高い学習環境を実現する。 ・教育課程を見直し、生徒の進路実現のための実態に即したものに改善していく。	A	A	・本校は大学進学を目指した教育課程であるため、普通高校の教育課程にかなり近くなる。特にアド探では、その傾向が強い。普通コースでは、大学進学以外に専門学校など多様な進路の生徒がいるため、芸術・商業・家庭科などの選択科目が多く設定されている。このことへの理解を深めていく。	B	A	・現在の問題点は、「化学」が2/3年とまたがって履修することになっているので、理系から文系に変更するときに多少の不利が生じること。異なった年次で履修できる科目が「音楽Ⅱ」のみであること。進路に必要な商業系の科目が多いなどの問題点が挙げられている。来年度に向けて検討する必要がある。	
		2 生徒が充実感・満足感を得られる教育活動を行っていますか。	② 文化祭・体育祭・球技大会等の生徒会行事に主体的に取り組み楽しかったと自己評価した生徒が80%以上である。 ③ 桐生清桜高校の学校生活が好きだと感じている生徒が80%以上である。	・友人との協力、先輩・後輩の交流を通して、自分の居場所を獲得し、他人との協調性を体得する。 ・あらゆる学校活動を通して、生徒の学校生活に充実感を持たせる。	A	A	・一学期には、第2回の文化祭を開催することができた。7月という暑い時期であるが、食べ物はキッチンカーを利用するなどの対策をとって行われた。清桜高校としての形が固まってきている。生徒も充実した2日間を過ごすことができた。職員役割を早めにきめて準備できると更によい。 ・帰属意識を高められる行事を行い、充実感や一体感の醸成を図る。	A	A	・球技大会・芸術鑑賞教室や予備会など楽しく参加する生徒が多く見られた。学習と行事のバランスを考えながら、生徒の成長の機会と捉え計画的に行って行きたい。
		3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と思っている生徒が80%以上いる。 ⑤ 「協働学習」等の学び合いに意欲的に取り組んだと自己評価した生徒が80%以上である。	・進路希望調査や学習量調査のデータを集計、分析し、それらを学力向上対策に生かしていく。 ・授業アンケートを実施し、その結果を踏まえて、授業の工夫・改善を行っていく。 ・協働学習やICTを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒の主体的・対話的な深い学習を促す。 ・就職から四年制大学進学希望まで多様な目標を持つ生徒に対し適切に対応する。	A	A	・模試などのデータの分析や面談等を踏まえて生徒の実態を把握し、授業を構想する。 ・授業アンケートの結果を各授業担当の授業改善につなげる。 ・協働学習は構成メンバーによってその効果に差が出るのが懸念されるので、班編制に工夫を加えた協働学習を構想する。 ・協働学習する時間とそうでない時間をうまく組み合わせる。	A	A	・授業の目的や学習目標を明確にし、生徒に伝えることで、何を学ぶのかを理解させるようにする。また、より具体的な事例や実生活の例を用いる工夫をすることで、学習と生活の繋がりをを持たせる。 ・協働学習に限ったことではないが、授業レベルが生徒に合っていることがモチベーションを引き出す上で重要である。ただ、共通テスト対策などは問題のレベルを下げることはできないのでその点は難しい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感、満足感をもっている生徒が80%以上いる。	・生徒の学力向上を目指すとともに、生徒各人の進路目標に応じた課外授業等を設定する。 ・家庭学習時間の確保を目標に、計画的に学習課題を設定する。 ・定期考査前を中心に、生徒の日常の学習習慣・学習時間を知ること、それぞれの生徒に応じた学習へのアドバイスを行う。	C	B	・確かな学力を身に付けるためには「主体的に学ぶこと」や「反復すること」が不可欠である。生徒の進路に応じた課外授業や、家庭学習の充実を図れるように各教科で検討していく。	C	B	・学力の土台となる基礎的な知識やスキルをしっかりと身に付けさせることが重要であり、そのためには、反復学習や定期的なテストを通じて理解を深めさせる。 ・単なる暗記ではなく、問題解決能力や批判的思考を育むため、グループディスカッションなどを取り入れ、生徒が自ら考え、意見を交換する機会を設ける必要がある。	
		5 生徒状況を把握し、組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ きめ細かな生徒観察を通して生徒に関する情報交換を月に4回以上実施している。 ⑧ 組織的な服装・頭髪・挨拶指導を月に1度(1週間程度)行う。	・年次と生徒指導部が密接に連携し情報交換を行い、生徒理解に努め安全・安心な学校生活を送らせる。 ・各学期と衣替えの時期に、登校時指導を実施し、「身だしなみ」「チャイムスタート」の徹底を図る。	B	A	・年次会議は毎週定期的に行われており、その中で情報交換は丁寧に行われている。教育相談係との連携も密に行われており、今後も継続していく。 ・二者面談の充実により、生徒とのコミュニケーションの機会を増やす。	A	A	・生徒の特性や家庭の方針など年々難しい問題に直面し、職員だけでは対応できない問題も多い。引き続きカウンセラーや特別支援コーディネーターなどの支援を得つつ対応したい。 ・教育目標に基づき、頭髪や服装に関する方針をより明確にし、職員に周知することが今後も重要である。
		6 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 生徒指導部だよりを10回以上発行し、学校の指導方針を生徒や保護者に伝える。 ⑩ 「部活動の活性化」の目標の下、部活動に加入している生徒が60%以上である。 ⑪ 欠席率・遅刻率・早退率の合計がやむを得ない理由を除き在籍生徒の3%以内である。	・保護者に学校の指導方針や指導方法に理解をいただき、共通した意識を持つ。 ・自ら部活動に加入し、学校生活を充実させようという意識を高める。 ・健全な生活習慣の確立と時間厳守の態度や精神を身に付けさせる。	B	A	・携帯電話連絡網システム(オクレンジャー)を利用して、定期的に生徒指導部からたよりを配信している。2学期もこのペースを崩さないように配布していきたい。 ※外部評価では、分からないと答えた15.4%を除いて評価している。	B	B	・生徒指導部だよりをただ配布するだけでなく、必ずLHR等で担任の言葉を通して生徒に伝えるようにする。また、生徒対象のたよりではあるが、保護者向けのたよりの検討も進める。 ・70%以上の生徒が部活動に加入している。部活動は、顧問の取組に大きく左右されるところがあるが、生徒の自主性を伸ばせるような有意義な活動を目指す。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑫ いじめの発生防止に努め、いじめの解消に推移していないいじめが0件である。	・いじめに関するアンケートを毎月実施し未然防止・早期発見に努め、発見された場合は状況を正確に把握し、解消に努める。	A	A	・いじめに関するアンケートが成果を挙げている。引き続き、今の取組を継続していきたい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	A	A	・いじめに関するアンケートが成果を挙げている。引き続き、今の取組を継続していきたい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	
		8 計画的な指導を行っていますか。	⑬ 各年次を対象にした進路関係行事を年5回以上実施している。 ⑭ キャリア教育・進路情報に関して最新の資料提供に努め、70%以上の生徒が自発的に進路活動を実施できるように促す。	・生徒の実態や年次段階を踏まえ、内容を精選し、事前・事後指導に努める。 ・進路情報・キャリア教育の2点を柱とし、自分自身や人生を考える一助とする。	A	A	・課外活動・模擬試験等、生徒の学力向上を目指す行事と、生徒に直接的に考えさせる行事のバランスを考え、引き続き指導していく。 ・進路情報の提供は計画的になされている。さらに自発的に進路活動に取り組めるよう引き続き指導していく。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	A	A	・1年を通して計画的に進路行事を実施している。生徒の幅広い進路希望に対して対応できるよう今後も検討を続けたい。 ・情報の提供など概ね適切なタイミングでできている。今後も継続して行っていきたい。
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、また保護者はそれを理解しその実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ キャリア教育・進路関係行事に主体的に取り組んでいると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ⑯ 生徒の将来の進路希望について、具体的に理解している保護者の割合が、80%以上である。 ⑰ 進学・就職情報、就学資金等の情報提供が十分になされ、理解している保護者の割合が、80%以上である。	・外部機関とも連携し、あらゆる機会を通してヒト・モノ・コトの出会いの場を創出し、進路意識の高揚を図る。 ・三者面談の内容を充実させる。HPや連絡網等を通じて、進路情報の発信に努め、家庭での進路対話の機会とする。 ・家庭の状況や年次の実態に即した進路指導及び情報提供に努める。また、保護者向けの進路行事を実施する。	C	A	・3年は4月に外部機関の進路ガイダンスを実施。1・2年についても生徒が主体的に進路を考える場を提供したい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。 ・三者面談を通して、生徒と保護者が進路について向き合い考える機会を設ける。	B	A	・2年生については、探究活動で地域の企業と活動する場面を設けている。1年については、大学／企業見学を12月に実施できている。 ・7月に全生徒を対象とした三者面談、3年生については、12月に進路が決まっていない生徒を対象に三者面談を行っている。志望校検討会等に多くの職員に参加していただき、生徒の進路に対して共通意識を持つように工夫したい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学校行事や部活動、生徒会活動で地域の方々と交流する機会を10回以上設ける。 ⑲ 携帯電話連絡網システム(オクレンジャー)の加入率が、全保護者の95%以上である。 ⑳ PTA総会等の保護者が参加する学校行事に出席した保護者が80%以上である。 ㉑ 学校のホームページを月2回以上更新している。	・地域・行事等に積極的に参加する。 ・諸連絡を含め、タイムリーに発信する。 ・保護者のニーズを把握し、適切な情報を発信していく。 ・最新の情報を掲載し、本校を理解してもらう。	B	A	・和太鼓部や探究の授業で地域の方々と交流を持っている。 ・8月現在99.6%の加入率となっており、保護者宛のオンラインでの唯一の連絡手段である。月間行事予定など定期的な連絡のほか、緊急時の連絡に使用している。	A	A	・2年生の探究や保育の授業などでも地域の方々と交流を持っている。準備等は大変だが、良い刺激にもなるので続けていきたい。 ・携帯電話連絡網システム(オクレンジャー)への要望が、更に高まっている。Webページの更新や成績配布などを行った際に保護者に連絡することが求められている。年次での対応を検討する必要がある。 ・2年生については、保護者向けの進路説明会と修学旅行説明会を行っている。1年生についてはスカイホールを借りて行い、170名の参加があった。その他の学校行事への保護者の参加には制限を加えているので、評価が低いと思われる。	
		11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉒ BYODを活用していると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ㉓ ICTを活用した授業を年3回以上実施している。	・年度初めの校内無線Lanのログイン方法について指導し、根気強く対応する。 ・ICTが効果的だと思われる授業場面を考え実施する。	A	A	・PTA総会と同日開催の授業公開に36%の保護者の参加。文化祭においては、延900人以上の保護者とその家族の来校があった。 ※分からないと答えた21.6%を除いて評価している。 ・昨年からWebページの見直しを図っている。以前より改善が見られている。さらなる情報発信の検討をしていきたい。 ※分からないと答えた保護者が23.7%を除いて評価している。	B	C	・7月に全生徒を対象とした三者面談、3年生については、12月に進路が決まっていない生徒を対象に三者面談を行っている。志望校検討会等に多くの職員に参加していただき、生徒の進路に対して共通意識を持つように工夫したい。 ・1・2年の保護者対象に進路講演会を行った。各年次ごとに発行している進路だよりの内容を見直ししていきたい。 ※分からないと答えた職16.7%を除いて評価している。
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ スタディサプリやBYODを利用して、課題や配付物の配信等を行っているとして自己評価している職員の割合が80%以上である。	・スタディサプリやBYODの利用法についての案内を行う。	A	A	・今年度からBYODがはじまり、1年次生については、おのおのがPC等を準備している。セキュリティの変更から、昨年よりログイン等のトラブルが増えているが、担当者が根気強く対応している。 ・セキュリティの変更で授業で利用できない場面もあったが、一学期後半は落ち着いている。現在検討中のDX加速化推進事業が、ICT活用の後押しになることを期待している。 ・Google Classroomの利用はかなり進んできている。スタディサプリについては、活用している職員から具体的な使用方法について紹介してもらった。	A	A	・1年生からBYODに移行し、いくつかの問題が浮き彫りになっている。来年度は、Chomebookの保守契約が終了し、故障等の対応などより多くの問題が予想されるので、早めの対応を行いたい。 ・DX加速化推進事業の予算執行が間に合わなかったため、来年度以降本格実施になる予定。 ・利用する職員とそうでない職員の2極化が進んでいる状況である。来年度から、どのような学習支援が良いのかも含め、現在検討中である。